

第9回「日・ASEAN対話」における伊藤憲一挨拶

2012年3月14日（水）

クララ・ユウォノ女史、ノロドム・シリヴット殿下、その他海外からご参加いただいているパネリストの皆様、会場にお越しいただきましたすべての皆様、今回の第9回日・ASEAN対話「ASEAN統合の未来と日本の役割」の主催者であるグローバル・フォーラムを代表しまして、一言開会のご挨拶を申し上げます。ようこそお越しくださいました。皆さまのお知恵を借りて、本日のこの会議を実り多い成果に富む会議としたいと願っております。

さて、現在ASEANは、2015年の共同体構築を目指して、統合に向けた努力を加速させています。日本は、この地域におけるASEANの「中心性」を尊重するとともに、ASEAN統合への協力を行なってきました。昨年11月にインドネシア・バリで開催された第14回日・ASEAN首脳会議において、2003年の「東京宣言」以来8年ぶりとなる新たな共同宣言「バリ宣言」が採択されましたが、これは、今後の日・ASEAN協力の基本的方向性を定めた新たな歴史的文書となることでしょう。この「バリ宣言」の柱として「連結性の支援」が特に挙げられていますが、すでに日本は連結性支援のために、総額2兆円規模の33のプロジェクトを実施することを決めております。他にも防災面でのASEAN防災人道支援調整センター（AHAセンター）（ASEAN Coordinating Center for Humanitarian Assistance on Disaster Management）の支援も行われることとなります。「バリ宣言」では、他に環境、教育、海洋安全保障、不拡散などの協力も提唱されており、今後も日本は、ASEANとの協力をオールジャパンで推進していくでしょう。

本「対話」は、今後の日・ASEAN協力の方向性を盛り込んだこの宣言を踏まえ、2015年に迫ったASEAN共同体の構築に向けた日本とASEANのさらなる協力の可能性を探り、今後の日・ASEANパートナーシップの在り方を展望するものです。そうした中で、本日は、ASEAN各国および、ASEAN事務局から12名のパネリストの方々を迎えて、より具体的な議論を深めていきたいと考えております。

2002年から開催されてきたこの「日・ASEAN対話」も、今年で9回目を迎えますが、この「対話」での議論の成果は政策提言として取りまとめ、日本政府並びにASEAN各国政府に提出する予定であります。

本日の会議が、実り多い意見交換の場となることを祈念して、開会の辞とさせていただきます。ありがとうございました。